

8. 子ども会活動と安全

1. 安全管理の考え方

子ども会活動をすすめるにあたり、参加者の安全については、十分に検討し活動計画をたて、ケガや事故を未然に防ぐよう努力が必要です。大切なことは「危ないからしてはだめ」ではなく、危険から身を守る経験を一つひとつ積み重ねる団体活動を通して、子ども達の安全能力を高めていくことです。「自分の体は自分で守る」という基本的な意識を育て、集団行動のルールが身につくようにしましょう。

子ども会活動には、非日常的な自然環境の中で行われるものもあります。日頃の生活で予想される危険とはかなり異なるものもありますので、事前に予想される潜在的な危険を予知し、無理のない計画づくりをしましょう。

子ども達の行動において、生命に関わると判断されることについては、断固として禁止の措置をとり、厳しく危険性を理解させることが必要です。

(1) 自然や環境での危険とは

- ① 気象によるもの：大雨・吹雪・強風・落雷・急激な天候の変化など
- ② 地形によるもの：転落・急斜面・岩場・落石など
- ③ 水場によるもの：水温・水深・水流・潮の流れなど
- ④ 地震によるもの：落下物・家屋の倒壊・火災など
- ⑤ 動植物によるもの：ハチ、アブ、毛虫、ヘビ、熊など

(2) 健康状態や活動技術での危険とは

- ① 健康状態：発熱・疲労・生理痛・便秘・下痢・歯の痛み・車酔いなど
- ② 怪我の原因：すべる、転ぶ、ぶつかる、おぼれる、落ちる、くじく、切る、はさむ、火、道具など
- ③ 怪我の状態：骨折、捻挫、打撲、擦り傷、切り傷、刺し傷、火傷など

(3) 人為的・心理的な危険とは

- ① 人間関係による精神的・身体的な疲労
- ② おふざけ、おしゃべり、うかれた気分などによる心理的な危険
- ③ 刃物や火、あるいは道具の扱い方の失敗による怪我
- ④ 交通事故
- ⑤ 無理な計画または主催者、指導者の安全管理過失による危険

2. KYTとは

危険（KIKEN）予知（YOCHI）トレーニング（TRAINING）のそれぞれの頭文字をとったのがKYTです。これは危険を自ら予知し・発見し、あらかじめ対策を立てるといったトレーニングの一つで、危険回避・状況の危険を自覚できる能力を身につけてもらうことをねらいとしています。昭和60年全国子ども会連合会の安全教育推進委員の研究会でKYTが取り上げられ、その後各地で安全教育の方法のひとつとして普及されています。

①KYTトレーニングの実際

子ども達全員が意見を出し合い、何が危険か、どんな危険が潜んでいるのかを自ら気づくようになることが重要です。グループ（5名～6名程度が効果的）に分かれ、子ども会活動風景が描かれているイラストを見ながら、参加者がそれぞれに危険と思われる個所を見つけチェックをします。一見何事もなく平穏に経過しそうに見える風景でも、そこに何らかの変化や作用が加わることで、事故を発生する要因が現れます。子ども、大人、それぞれの視点・経験・認識によって危険予知が異なりますので、子どもと大人がそれぞれの視点でKYTを行ってみることをお勧めします。

②KYT 3つの効用

- ① 活動の流れや起こりうる変化についての幅広い経験や理解
- ② ある状況や行動がもつ特徴やリスクに関する確かな知識や洞察力
- ③ 豊かな想像力

③KYT ルール・・・批判しない

- ① 質より量：全員にどんどん発言させる
- ② 自由に話せる雰囲気
- ③ 他人のアイデアを加工しても良い
- ④ 論議をさける

④KYTのすすめ方・・・5つの質問を順に投げ掛け、話し合うものです。

- 「まずは、役割分担（リーダー一人、記録一人）を決めましょう」
- 第1ステップ・・・「どんな危険がかかっているのかな？」（危険の発見・現状把握）。
（～したとしたら～になる・～なので～になるかも）
- 第2ステップ・・・「これが危険のポイントだ！」（特に重要なものは何か）
みんなの関心が高いもの、重大な事故の可能性のあるものを2～3個ピックアップして◎印をつけます。
- 第3ステップ・・・「私ならこうする！あなたならどうする？」（具体的対策を立てる）
みんなでどうしたらよいか考え、実行する行動目標を決めます。
- 第4ステップ・・・「私たちはこうする！」グループとして「必ずしなければならないこと」を行動目標として決め、1つか2つ×をつける。
- 第5ステップ・・・「～を～して～しよう」のようなスローガンを掲げ、活動中自分たちで、声かけをしたり、確認をしあったりしながら、安全で、楽しく仲良く活動できるようにしましょう。

野外炊飯で野菜の調理をしています



みんなで考えましょう

○危険のポイント

- 『人の行動』について
- 『場所の問題』について
- 『子供の心理状況』について

○アドバイス

作業をするときは落ち着いて取りかかること。
包丁などの取り扱いは正しい扱い方を実際に見せるなどして指導すること。

3. K. Y. T (危険予知トレーニング) シート

氏名 _____

何をしているところか
タイトルをつけましょう



第1ステップ『 どんな危険がかかれていますか？ 』 みんなで考えよう

※一人でやるコース：気が付いた危険を書いてみよう

※グループでやるコース：みんなでどこが危ないか出し合ってみよう

個所	～したら	～だから	～になる	～するかも	原因チェック※
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
メモ					

※原因チェック ○服装による △場所・用具・環境による ×心身の状況による

第2ステップ『ここが危険のポイントだ』

第3ステップ『 私ならこうする 』

第4ステップ『 私だったらこうする 』必ずグループでしなければならないこと

第5ステップ グループでのスローガン 『 ~を~して~しよう 』

例) 声かけあって、みんなで気づこう、楽しもう!

4. 活動チェックシート

活動を計画・実施するにあたり、以下の項目について確認しましょう。また、確認は事前に行うだけでなく、実施後にも必ず行い、反省点などをまとめるなどして次回の活動に役立てるようにしましょう。

1. プログラムの作成		確認日	備考
①	子ども会活動の目的を基に場所・時期・内容案作成		
②	子どもの予定参加人数把握		
③	育成者・指導者の人数把握		
④	タイムスケジュール案作成		
2. 下見のチェック		確認日	備考
①	実施場所周辺の下見		
②	野外の開催では地形と自然環境の変化に伴う対応の確認		
③	地元利用館からの情報収集		
④	交通手段の確認（徒歩・バス・自家用車・地下鉄）		
⑤	子ども達の活動範囲の検討・確認		
⑥	活動エリアを見渡せる場所を確認		
⑦	トイレ・着替え・日陰・休憩場所の確認		
⑧	連絡方法・管理体制の確認		
⑨	周りの病院や連絡所などの確認		
⑩	育成会準備物確認		
⑪	参加者の服装確認		
3. 管理体制のチェック		確認日	備考
①	救急箱（用具）を用意		
②	動植物の情報を調べ、対処方法作成		
③	参加者の服装・携帯品の確認		
④	危険個所の確認		
⑤	避難場所の確認		
⑥	緊急時保護者連絡先表作成		
⑦	携帯電話またはトランシーバーを使用し活動中の連絡体制作成		
⑧	参加児童保護者対象説明会実施 活動内容・準備物・健康管理・心構え等について		
⑨	参加者の安全共済会加入の確認		
4. 活動前日および実施中のチェック		確認日	備考
①	育成者・子ども達の役割分担確認		活動前
②	天候予報を確認		活動前
③	活動の当日、指導者・ジュニアリーダーなどは早めに集合し、受け入れ体制・活動内容・役割分担・準備物確認を行う		
④	子ども達および育成者の健康チェック		
⑤	情緒不安傾向の児童や注意を要する児童への個別的配慮の確認		

⑥	定期的に、人数確認をしていましたか？		
⑦	子どもの単独行動に注意		
⑧	子ども達に危険な生物や物、行動について注意をする		
⑨	定期的な人数確認		
⑩	スタッフ同士または外部との連絡ができるように体制作成		
⑪	プログラムの進行状況を管理		
5. 解散直後、事後のチェック		確認日	備考
①	参加者の点検と健康チェック		解散前
②	帰路の交通安全の一声		解散前
③	保護者に子どもに関する連絡事項を伝える		
④	安全対策に対する反省をしましたか？ ア. 参加した子ども達の感想・反省の記録 イ. 活動は楽しく、危険を感じたことはなかったか事前の安全のきまりは守れたか？ ウ. 緊急体制の活用について		
⑤	今後どんなことに注意したらよいか、指導者・育成者・ジュニアリーダー・シニアリーダーと反省会をもち、子ども自身の感想・反省をふまえ、次の活動に生かしましょう！ ア. 活動内容・安全対策 イ. 指導体制や緊急体制 ウ. 指導者の安全指導 エ. 緊急体制の活用		
⑥	協力機関への連絡、挨拶はしましたか？		

5. 活動中の事故・緊急時の対応

計画や準備に万全の注意を払っても、活動中に事故が起こる場合があります。その時の緊急時の判断や処置および救急法の実際を理解し、緊急体制を作成します。

*緊急体制は裏表紙をご覧ください。